



開花始めは昨年並みと予想されます。降雨次第で展葉後から一次感染が拡大する恐れがあります。黒星病早期感染防止のため 5 月末まで予防散布を徹底してください。

ふじ開花予想：南部 4/22 頃・平岡 4/24 頃・北部 4/26 頃 *4 月の気温次第で前後する場合があります。

◆ 4 月上旬の薬剤散布【展葉後】

散布時期：4 月 5～10 日頃

散布薬剤：水 100 リットル
展着剤 10 ml
パスポートフロアブル 100 ml (45 日前・3 回)

対象病虫害：黒星病

10 アール当り散布量：350 リットル

【注意事項】*必ずお読みください。

- ① 散布目安：展葉 2～3 枚目頃
- ② 黒星病強化：展着剤ササラ 2,000 倍を使用する。
- ③ うどんこ病対策：コロナフロアブル 400 倍を加用する。

◆ 散布日：4 月 日

◆ 散布量： リットル

◆ 4 月中旬の特別散布【開花 10 日前】 * 黒星病強化体系

散布時期：4 月 12～18 日頃

散布薬剤：水 100 リットル
展着剤 10 ml
劇ベフラン液剤 100 ml (前日・3 回)

対象病虫害：黒星病

10 アール当り散布量：400 リットル

【注意事項】*必ずお読みください。

- ① 散布目安：展葉 5 枚目頃
- ② 黒星病強化：展着剤ササラ 2,000 倍を使用する。
- ③ うどんこ病対策：コロナフロアブル 400 倍を加用する。
- ④ ベフラン液剤は劇物です。購入の際は印鑑をお持ちください。

◆ 散布日：4 月 日

◆ 散布量： リットル



【黒星病の発生生態と生活史】（長野県果樹指導指針より）

① 発生生態

本病菌は被害落葉・芽りん片・枝病斑で越冬するが、量的に重要なのは被害落葉である。被害落葉上では冬期間に偽子のう殻が形成され、早春に成熟し発芽期頃から子のう胞子が飛散して感染が始まる。子のう胞子の感染適温は 15～20℃で、この温度での潜伏期間は約 10 日である。

一次感染は開花前後がピークとなり、落花 20 日後頃まで続き、その後は病斑上に形成された分生胞子により二次感染が続く。菌糸の発育適温は 16～24℃で、分生胞子の発芽適温は 15～25℃である。

感染の条件として降雨と密接な関係があり、雨が多い時また葉がぬれている時間が長い時に感染しやすい。温度 10～20℃で感染しやすく 1～2 週間で病斑が現われる。

② 生活史



リンゴ黒星病菌の生活環 (Agrios 1988)

果樹特報 No3 発行予定：4/17 (水)
内容：開花期・落花後の薬剤散布